

第2学年C組 道徳学習指導案

期 日 令和元年10月11日 第5校時

生徒数 男子13名 女子13名 計26名

指導者 教諭 三浦 和明

1 主題名 「義」の心を受け継ぐ 指導内容：我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度（C-17）

2 教材 「日本の心にふれる」（出典：新しい道徳2 東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）道徳的価値について

中学校指導要領の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」の17「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」は、「優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家および社会の形成者として、その発展に努めること。」となっている。

普段の生活の中で、生徒が国家を意識するのは、スポーツの日本代表など限られた場面である。また、グローバル化によって、他国の文化や価値観の流入が進んでいる。我が国には他国の文化を受け入れることに対して寛容であるが、その一方で、我が国古来の良き伝統や価値観が薄らいできている側面もあるように感じられる。我が国には我が国の良さがあり、その中には外国人の賞賛を得るものもある。我が国古来の良き道徳的な価値観にふれることにより、日本という国家の形成者として、その発展に努めようとする意識を育てていきたい。

（2）生徒の実態について

年度当初はクラス替えによってなじめなかった部分もあったが、日々の生活や体育祭などの行事を経て、集団としての意識が高まってきたように思われる。学級に入ることにより、生活面や学習面において困り感を持っている生徒も数名いるが、お互いがお互いの立場を認め、受け入れようとする気持ちや言動が見られる。このような言動が見られるのは、学級の生徒の多くが、自分の学級に愛着があるからであると思われる。自分の所属している集団に愛情があるからこそ、人はその集団に対して貢献しようとするものだと私は考える。

我が国は古来、人としてのあり方や行動規範を宗教ではなく、道徳的な価値の中から見だし、育ててきた。その一つの形となったものが、新渡戸稲造の著した『武士道』である。我が国が誇れる道徳的価値にふれることにより、我が国を愛する態度を育てていきたい。

（3）教材について

本教材は、日本人が伝統的に受け継いできた道徳的価値とは何かを問うものである。その一つである「義」とは何かを言葉で表すことは容易である（林子平は義を「事の対処にあたって、道理に従い、ためらうことなく決断する力である」と定義している）が、それがどのようなものであるかを自分の中に感覚として取り込み、そしてそれを実践することは非常に難しい。本単元では、日本人の道徳的価値に関する文章が数種類用意されており、その中には、本校にゆかりのある新渡戸稲造に関するものもある、これらの資料にふれることによって、日本人の道徳的価値に触れさせ、我が国の良さを見直すきっかけとし、それを受け継いでいこうとする態度を培いたい。

(4) 指導に当たって

日本人の道徳的価値に根付いている『武士道』の中でも最も大切とされる「義」とは何かを中心発問として授業を展開していく。その際に、単に教科書を頼りにするのではなく、授業の構成に即して部分的に活用する方法を採りたいと考えている。「義」の定義を単に言葉として教えるのではなく、生徒たちに「義」の持つ意味合いを感じさせ、受け継いでいこうとする態度を培っていききたい。また我が国のよさを改めて認識する機会を持つことによって、自国に愛情を持ち、自国の発展に貢献しようという意欲を養っていききたい。

4 本時の学習指導

(1) ねらい

日本人が伝統的に受け継いできた「義」の心に触れ、自分の内面を省み、受け継いでいこうとする態度を培う。

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問 ◎主発問)	教師の活動と手だて
導入	1 日本人の道徳的な行動に対して、賞賛する外国人の言葉を紹介する 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本人が伝統的に受け継いできた心とは何だろう。</div>	・どんなことに対して賞賛していたかはここでは触れない。
展開	2 外国人から見た、日本人の良さや素晴らしい行動について考える。(4人グループ) ○ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">外国人から見た、日本人の良さや素晴らしい行動には、どんなものがあるだろうか。</div> 予想される生徒の反応 ・礼儀正しい ・親切 ・約束を守る ・きれい好き 3 教科書 P125 ホセ・ムヒカさんの言葉を一部分のみ紹介する 4 新渡戸稲造の『武士道』の中で一番大切なものは「義」であることに触れる 5 教科書 P122 「義は人の道なり」を読む 6 教科書を参考に、「義」とはどういうことなのかを考える。(4人グループ) ◎ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「義」とはどういうことなのだろうか。</div>	・考えやすいように、価値観でも行動面でもよいことにする。 ・生徒たちが考えた、日本人のよさを補足する。 ・活動が停滞しているグループには支援する。 ・考えられなかったグループは無理強いしない。

<p>終末</p>	<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損得なく考える ・正しいかどうかで行動する ・行動の基本 <p>7 林子平の「義」の定義について話をする。</p> <p>8 導入時に紹介した行動を明らかにする。</p> <p>9 今日の学習で学んだこと、感じたことを、Aシートに記入し、シールを貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の道徳的価値をどう思うか。 ・今後の生き方について など 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の「損得に関係なく」、「正しいことをする」という部分について、生徒の発表と関連付ける。 ・「損得に関係なく」という部分で、行動できているかをそれぞれ省みさせる。 ・普段の言動と関連させ、生徒それぞれにも日本人の素晴らしい道徳的価値が受け継がれていることに触れ、それを大切にして行きたいということについて話をする。
-----------	---	--

(3) 評価

日本人が伝統的に受け継いできた「義」の心に触れ、自分の内面を省み、受け継いでいこうとしている。
(プリントへの記入)